



発行年月日 2014年1月31日

発行者 日本作業科学研究会広報係

ウェブサイト <http://www.jssso.jp/>

会長 所感

港 美雪

私たちは、幸せな人生を送るためにどのような作業を必要としているのでしょうか。ある作業に取り組む経験が、全体の何らかのバランスを保つことにつながっていたり、他の作業をすることへ、環境を動かすことへ、そして意味を叶えることにつながっていたりと、可能性を広げ、相乗効果を発揮するかもしれません。また一方で、幸せな人生に必要な作業へ取り組むことができない状況は、全体のバランスを崩し、他の作業や環境を動かす可能性をなくし、ネガティブな意味をもたらし、未来の可能性を失っていくかのように感じるかもしれません。作業科学はこのような私たちが経験している作業について、研究を通して明らかにした上で、実践の洗練につながる貴重な情報を作業療法士へ与えてくれます。

近年、「作業に焦点を当てる実践」が強調されるようになりましたが、実践報告などの文献を手にしたOTから、「この実践は作業に焦点が当たっていると言えるのでしょうか」と質問を投げかけられることがあります。私は「どのように作業に焦点を当てたのかの記載がありますか」と聞き返すことがあります。実践において、「なぜ」、「どのように」、作業に焦点を当てたのかについての記載が論文にあるかどうか、そして参考文献に作業科学の研究論文があるかどうかです。

作業科学の発展は、作業療法の基礎、基盤に作業科学を位置づける状況づくりへと歩み

を進めることでもあります。作業科学の論文を読み、なぜ、どのような作業に焦点を当てて実践を行なうのかを洗練し、実践に取り組み、さらにその実践において課題を見出し、「作業についての問い」につなげ、作業科学研究への取り組みを選択肢に加えていただけたらと思います。「作業科学研究」への投稿、作業科学セミナーでの発表、メーリングリストなどを活用し、また全国の作業科学研究会ともつながり、積極的な取り組みにつなげていきたいと思っています。よろしく願い致します。

第17回 作業科学セミナー福島報告

財団法人太田総合病院附属太田熱海病院

齋藤 佑樹

昨年の11月30日、12月1日。福島県郡山市で第17回作業科学セミナーが開催されました。原発事故問題などが完全に解決していない福島が開催地とあって、参加人数がどのくらい集まるのか。実行委員一同心配していましたが、おかげ様で245名の方が会場に足を運んでくださいました。

セミナーでは、3名の講師の先生による講演に加え、4題の口述発表、7題のポスター発表、全員参加のワークショップを行いました（抄録は日本作業科学研究会のHPから御覧いただけます）。

今回のセミナーの特徴として、日本作業科学研究会の非会員および初参加の方が多かったことが挙げられます。それだけ作業科学に

対する関心が高まってきているのではないのでしょうか。

世の中の関心が高まっている今だからこそ、私達は共に切磋琢磨できる仲間がいることを追い風に、互いが学びを深め、お互いの成果を共有し、更に学びを深め合う。そんな関係作りができる環境を作り出すべきだと思います。

ぜひセミナーで出会った沢山の仲間や知見を大切にしながら、共に前に進むことができればと思います。

さて、次回の作業科学セミナーは山口県が舞台です。大会長は私の親友。渡辺慎介君が務めます。皆様、ぜひよろしく願いいたします。



医療法人同愛会 介護老人保健施設やわらぎ 鬼木 徳子

第17回作業科学セミナーに初めて参加しました。

特別講演の木田先生のお話は、老健で働く私にとっては、ひとつひとつの言葉が胸に響きました。震災後、環境が作業を制限し、利用者の想いを制限している現状を変えようと、利用者と共に歩んでこられた過程を聴き、涙がでそうでした。意味のある作業の獲得ができるために、作業・環境・適応…様々なことを考え、寄り添うことのできる作業療法士になりたいと思いました。

そして、ワークショップの経験はとても新鮮でした。ご本人にとってその作業がなぜ大切なのかを引き出していく聴き方の幅を普段の臨床現場では中々学ぶことができません。グループワークのメンバーの方々のように、大切な作業について深め、しっかり物事の背景を捉えられるようになりたいと思いました。team野口英世のみなさん、ありがとうございました。

懇親会では福島の美味しい郷土料理を堪能でき、金屏風の前で福島の伝統芸能を体験出来た事は最高の思い出です。お会いしたかった作業療法士の方々、新たな繋がりもでき嬉しかったです。

熱い演題発表やポスター発表、ヘレン・ポラタイコ先生の基調講演、齋藤先生の記念講演はとても勉強になり、作業科学に対する興味・関心の幅が広がりました。

最初は難しい勉強会だから、自分が参加しても…と壁を作っていました。参加してみると、作業について色んな価値観や考え方を学ぶ事が出来、とても参加して良かったと思いました。まだまだ作業について分からない事がいっぱいあり、もっと作業について深めていきたいです。大会長はじめ、長い間準備をされ、心あたたまる『お・も・て・な・し』をしてくださった実行委員の皆様、本当にありがとうございました。

復興にむけて歩まれている元気な福島を実際にみて・感じる事ができて本当に良かったです。





郡山健康科学専門学校 作業療法学科

芥川奈央 薄井純子 松崎春華

今回，初めて作業科学セミナーに参加させていただき，今まで授業で学んできたことを，さらに臨床的な知識として理解を深めることができました。

これまで多くの方の講演を聞くことはあまりありませんでしたが，ヘレン・ポラタイコ先生や斎藤さわ子先生の講演，全国各地から集まった皆さんの熱気が伝わってくる研修会に参加できたことは本当に良かったと思います。

中でも，作業の持つ不変性と特異性を知ったことで，改めて作業の奥深さを知ることができ，学校で学んだCOPMの話を実際に聞けたのが自分の理解を深めるための良い勉強になりました。

また，講演・発表に対しての質問や意見の内容にも作業療法士の先生方一人ひとりにそれぞれの考えがあり，面白さを感じ，そのディスカッション（質疑応答）に聞き入っていました。

ワークショップでは，日本各地の作業療法士の方々が一つのことを考えると，いろんな見方の考え方があって，年齢や性別はもちろんのこと，育った環境，生活している場所，文化によりこんなにも違うものであることを実感することができました。

それに加え，そのディスカッションに参加させていただき，意見や考えを発言すること

は，自分の考えを深めていける大切な機会だと感じました。

この輪の中に加わられたことで私たち自身が，作業は人に大きな力を与えることを経験させていただきました。

これからも授業や実習が続きますが，単に覚え知識量を増やすだけでなく，作業療法士を志す者として，一人ひとり異なった作業の形態や機能，その意味，人と環境の作業への影響など，作業そのものに対する理解をより深めることや作業はどういった力を持っているのか，作業が人に与える影響についてもしっかりと理解を深めていくことの大切さを心に刻み，取り組んでいきたいと思えます。

学生として一日も早く皆様と同じ土俵に立って議論に参加できるよう，目標を与えていただいたような気がします。ありがとうございました。

第18回作業科学 セミナー 山口

H26.11.15-16

第18回 日本作業科学セミナーin山口
のお知らせ

専門学校YICリハビリテーション大学校
渡辺慎介

おいでませ山口へ！

「おいでませ」は山口の方言です。標準語では「来て下さい，お越し下さい」にあたり，

そこには、「皆様を歓迎します，最高のおもてなしを準備しております」といった意味があります。平成26年11月15日(土)・16日(日)，山口県宇部市にありますYICリハビリテーション大学にて第18回日本作業科学セミナーを開催いたします。山口県は交通アクセスが決して良くありませんが，会場となる宇部市は飛行機，新幹線どちらでもアクセスしやすい土地になります。また，お時間が取れましたら，下関の「ふぐ」，日本一の鍾乳洞「秋芳洞」，明治維新の故郷萩史跡等の観光もお楽しみ下さい。

本セミナーテーマは「作業科学とリーダーシップ(仮)」としました。山口県は吉田松陰を筆頭に明治維新の偉人を多く輩出し，当時の日本をより良くするためにリーダーとなって活躍しました。テーマには，この山口県の歴史的背景に力を借り，私達が作業に関する知識の発信源の一つとなっていきたいという思いが込められています。また，参加者の皆様が作業科学を学ぶことで，作業の知識を深め，それらをクライアント，作業療法士，他職種，広くは一般市民の方々に伝えていくという，「リーダーの役割」を担っていただきたいという願いもあります。

基調講演はJohn A. White, Jr.氏(Pacific University School)，佐藤剛記念講演は坂上真理氏(札幌医科大学)，特別講演は坂本俊久氏(アーキスタジオ・テン1級建築士事務所代表)に決定しております。その他，口述発表，ポスター発表，教育講演(初学者向けセミナー)，ワークショップといったプログラムを考えております。

日本の作業科学の発展に重要な役割を担う，作業科学セミナーの実行委員長を担うことにプレッシャーを感じますが，実行委員一同心を込めて企画・運営に携わらせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

理事会議事録

平成25年度 第1・2回

日本作業科学研究会理事会 議事録

日時：平成25年12月1日(日) 8:30~9:30/
13:00~14:30

場所：福島県 郡山ユラックス熱海

出席者：港，西方，酒井，青山，小田原，近藤，西野，吉川，古山，坂上，齋藤(さわ子：第2回参加) 齋藤(佑樹：第2回)，宗像(第2回参加)，池尻(第1回参加)

【議題：報告と審議事項】

I. 各委員会より

1. 学術委員会(吉川，青山)

1) 機関誌編集班

- ・著作権について7巻より機関紙の後に加える。
- ・7号には，ポラタイコ氏の講演内容，2本論文を掲載する予定。

2) 研究推進班(酒井)

- ・25年度の研修会は5月に東京で行うことを検討している。

3) 実践につなげる班(西野，港)

- ・25年度は研修会を実施しない。
- ・26年度は，8，9月を考えている。

4) 啓発・国際情報班(小田原，坂上)

- ・JOS20巻3号以降の訳の作業に入った。
- ・昨年度作業科学関連論文の訳を載せたが，それ以降は出版社の承諾を得るのが困難となっている。

2. 広報・ネットワーク委員会

1) ホームページ，メーリングリスト担当(西方)

- ・12月で浅羽さん終了。1月から新しいIT管理者となる。
- ・総会の質問者から研究会の利点等，研究会を紹介するページを作ってもらおうと便利との案が出された。

→研究会の目的等をすぐわかるようにしたものを作成しPDFでHPに掲載する方向で検討する。

2) 研究会ニュース担当 (西野)

- ・年2回発行する。
- ・次号には山口県の渡辺さんに記事を掲載してもらおう。

3. 学術研究会 (含むセミナー開催サポート)

1) 第17回作業科学セミナーについて (齋藤, 宗像)

- ・245名参加。
- ・プログラムの流れは楽しかったとの感想だった。アンケートを集約して報告する。

2) 福島支援事業 (坂上)

- ・クリアファイルの残部を会場で販売したところ、完売した。

3) 第18回作業科学セミナーについて (説明資料あり) (池尻代理)

以下について報告と承認がなされた。

- ・日時は11月15, 16日で調整する。土曜日の朝から日曜日の昼までとする。
- ・場所：YICリハビリテーション大学校
- ・コンセプト：作業科学とリーダーシップ
- ・基調講演：John White氏を検討中。
- ・特別講演：坂本俊久氏 (1級建築士)
- ・テーマ：作業科学とリーダーシップ
- ・佐藤剛記念講演：坂上の方向で。
- *会場は200名キャパなので、事前申し込みを必要とする。

4) その他

- ・第19回作業科学セミナー：浜松を候補とする。

4. 統括 (港)

1) 研究会決算と研究会の会費について

収支がギリギリだが、繰越金が70万円ある。25年度の実績をみてから会費を検討することです。

2) 26年度選挙について

3名の任期が満了となる。

5. 事務局 (古山, 坂上)

1) 会員数：181名

2) 決算報告

- ・24年度は結果的に赤字にならなかった。寄付の5万円引いてもギリギリで大丈夫だった。

3) SS0:USA Board Memberとのミーティング報告

- ・小田原, 近藤, 西方, 坂上と, SS0:USAの会長, 副会長, 事務局をはじめ主要なメンバーと, 橋渡し役にゼムケ先生が出席。今後コミュニケーションの場をもつことを確認した。

II. その他の検討事項

- ・次回理事会は, 5月の研究法研修会時に開催する方向で調整する。

日本作業科学研究会第8回総会議事録

日時：平成25年11月30日 (土)

12:30~13:00

場所：郡山ユラックス熱海 (福島県郡山市熱海町熱海2丁目)

議長：村上典子 (豊見城中央病院)

副議長：上江洲聖 (那覇市安謝福祉複合施設)

書記：倉田香苗 (名南ふれあい病院)

加藤奈美 (偕行会リハビリテーション病院)

議事録署名人：堀部恭代 (愛知医療学院短期大学)

土谷里織 (新さっぽろ脳神経外科病院)

- ・定足数報告 (鈴木励 河北リハビリテーション病院)

→平成25年11月30日現在の会員数 (25年度会費納入者) 154名。総会参加72名, 委任状提出35名, 合計107名で総会が成立した。

表 さとり歴

回	テーマ	回	テーマ
1回	(抄) Well Elderly Study I「健やか高齢者研究 I」 (意)「作業に関する参加者の想い」 (抄)「作業的ストーリーテリングと作業的ストーリーメイキング」	7回	(症) 症例報告 (抄)「作業剥奪」
2回	(抄)「作業に関する疑問」(今) (ワ) さとり会に参加して、「4年後のリオでのオリンピック開催時にどんな私になっているか」(今)	8回	(講)「作業科学入門」(酒井) (抄) Well Elderly Study II「健やか高齢者研究 II」
3回	(講) 第2回のワークショップでの「作業の疑問」を解決(港)	9回	(講) 作業に焦点をあてた介護予防教室の展開(横井)
4回	(抄)「作業の意味」	10回	(講)「生活行為向上マネジメント」(北別府, 西井) (ワ)「生活行為向上マネジメントと作業の関係性」
5回	(伝)「作業の知識を実践につなげる研修会」	11回	(症) OSセミナー発表者4名の症例報告
6回	(症) 症例報告 (抄)「作業剥奪」		

抄＝抄読会，意＝意見交換会，ワ＝ワークショップ，講＝講演会，伝＝伝達講習，症＝症例報告

・議案と議事の経過

第1号議案 平成24年度（2012年7月～2013年6月）事業報告および第2号議案 平成24年度（2012年7月～2013年6月）決算報告・監査意見

→圧倒的多数で賛成し可決した。

第3号議案 平成25年度（2013年7月～2014年6月）事業計画及び予算案の件

→圧倒的多数で賛成し可決した。

会員より「各地域で作業科学の学びの場に講師の派遣は可能か」の質疑があり，会長が理事の中でもそのようなアイデアがでていたり，メーリングリストを活用した各勉強会とのネットワークの強化の必要性について返答した。

第4号議案 その他

1. 次期作業科学セミナー開催地を山口県宇部市，大会長として渡辺慎介氏（専門学校YICリハビリテーション大学校）が推薦された。

→圧倒的多数で賛成し可決した。

こんな勉強会しています(^_^)

各地の作業科学関連の勉強会を御紹介します。次号に自分の勉強会も紹介したいという

方々からのご連絡をお待ちしております。

さとり会（作業を取り扱う勉強会）

さとり会 事務局
横井 賀津志

さとり会*（作業を取り扱う勉強会）が誕生して，約1年半が経ちました。世話人は勉強会の名付け親でもある酒井ひとみさんです。「これから，作業について，共に考えませんか？」と題して，近隣の作業療法士に投げかけたところ，臨床と教育機関あわせて約20名の作業療法士が集いました。これが，さとり会の第一歩となりました。そこで，作業に関する想いや疑問を伝えあい，作業分析や作業と健康の関係，さらには作業療法の伝え方まで，全員で考えていくことになりました。さとり会は発足時から，参加する者が中心となりテーマを検討しています。症例報告やワークショップで討論した作業に関する疑問や解釈困難な用語などを次回の抄読会や講演会のテーマにしていることも大きな特徴かもしれません。

ここで，過去のさとり会のテーマをさとり歴と題して紹介します(表)。さとり歴を振り返ると，毎回のテーマが大切な作業のかけ橋に思えてきます。

参加者は臨床と教育機関の作業療法士をあわせて約40名(20~70名)です。これからも臨床

と教育の両輪で作業についての知識と実践を深めていきたいと思えます。また，さとり会が参加者の大切な作業のひとつになるように，まずは勉強会を継続していきます。大阪での作業科学の勉強会に興味がある方は，下記のアドレスにご連絡下さい。奇数月に勉強会を開催していますので案内を差し上げます

(yokoi@fuksi-kagk-u.ac.jp 関西福祉科学大学 横井まで)。

*さとり会とは，作業を取り扱う勉強会を略して名付けた言葉です。

シリーズ 作業を考える@東北

震災からもう少しで3年です。震災が風化していくことの不安を言葉にする人たちに，私たちはちゃんと共感しているのでしょうか。

あの時の経験を語り合い，忘れることなく日々を過ごそうと思えます。原稿を書いたくださった高橋さん，ありがとうございます。

生きるための作業から よりよく生きるための作業へ 矢本ひまわり訪問看護ステーション 高橋 仁

震災のあの日，私は前職の宮城県北部沿岸にある介護老人保健施設に勤務していた。施設には約130名の利用者と約50名の職員がいた。利用者の大半は車椅子の方であり，津波到達までのわずかな時間では，全利用者が避難ビルまでは避難できない為，施設2階のホールへ利用者・職員は全員避難した。6mの津波までは大丈夫のはずだったが，大津波は想定を超え施設を丸呑みにし，全員が津波に流された。私は肩の高さまで津波に浸かり，ベッドや車椅子，流れ着いた瓦礫に体中を打ちつけられ死ぬ覚悟をした。私は幸い生き残るこ

とが出来たが，津波の被害は大きく，約60名の利用者を亡くした。津波の中では自分の命を守るのが精一杯で，私が助けることの出来た利用者は1名だけだった。多くの利用者を亡くし，助けられなかったことへの自責の念に苛まれたが，「生き残れた利用者のために自分，生きて成すべきことがある」と強く思い直し，被災直後は体の不自由な方を避難所まで介助したり，援助物資を運んだり，ただただ自分が出来る生きるための作業をしていた。

避難所へ避難し3日程経ち生き残れた実感が湧いてきた頃からは，利用者が廃用症候群にならないよう1人ひとりの不安を和らげるような声かけをしながら関節可動域訓練を行ったり，集団での体操の指導を行ったりした。利用者は皆一様に不安が強かったが，運動をしている時は笑顔も見られていた。1週間が経った頃からは，避難所全体での体操の指導も行った。体操に参加していた方からは「体を動かすと気持ち良いね。」などと生き生きした顔をしていたのが印象的であった。自分が避難所で作業療法士としての出来た働きはこのくらいだったが，人間らしく生きる（活動する）ための作業が出来たと思う。健康を維持・回復させるために作業を用いる形は，まさしく作業療法だったと思う。震災により，病院や施設での勤務では経験することが出来ない「生きるための作業」・「人間らしく生きるための作業」を経験することが出来た。

現在私は，地元で訪問リハビリをしている。地元も被災地であり多くの利用者が被災者である。うまく言葉に出来ないが震災を経験した自分だからこそ見えるもの，出来る作業があると思ひ現職に就いた。震災により廃用症候群になってしまった方，震災のショックが未だ癒えない方，仮設住宅でストレスを抱えている方など利用者は身体，精神，生活など多くの面で困難を抱えている。私は作業療法

士として，利用者がその人らしい生活を再構築できるように，その人にとって大切な意味のある作業は何か，より良く生きるための作業は何かを意識して援助するように心がけている．利用者の福幸のために，今日も私は復興半ばの矢本の街へ訪問に行く．

編集者からのお知らせ

お知らせなど，このニュースに掲載したい記事がある会員は，西野歩nishino@sigg.ac.jpまで，お送りください．ニュース発行は年2回の予定です．

担当理事 西野歩，村上典子

皆さんへのお知らせ

作業科学研究法研修会

昨年定員を超えて応募のあった研修会を今年も企画しております．開催場所と日時を調整中です．申込方法をお読みのうえ，JSS0事務局からのとメール，JSS0のメーリングリストからのお知らせをお待ちください．

研究研修班一同皆さまの参加をお待ちしております．

1. 日時：2014年 5月（11日、12日あるいは、24日、25日）土曜日：13:00～17:30（12:30受付開始） 日曜日：9:40～12:30
2. 場所： 関東（東京あるいは山梨で調整中）
3. プログラム

第一部：作業科学のための基礎知識

- ①作業科学とは何か？ 講師：近藤知子
- ②研究とは何か？ 講師：酒井ひとみ
- ③作業科学研究文献の読み方 講師：近藤知子

第二部：作業科学研究の理解

- ①. 作業科学研究の進め方I 講師：小田原悦子
- ②. 作業科学研究の進め方II ワークショップ

4. 会費： ①会員：8000円 非会員：10000円

5. 定員： 先着30名

6. 申し込み方法：日時・場所が決まり次第JSS0事務局のメールおよびJSS0のメーリングリストを通してお伝えします。

